

4 穂高の池めぐり

きらびやかな山上の秘境をめぐる

北穂池

★★★ 湖沢(2時間) 北穂高岳東稜北穂池分岐(1時間30分) 北穂池
 (1時間) A沢のコル(1時間) 北穂高岳(2時間) 湖沢

5万回 上高地、2万5000回 穂高岳・上高地
 歩行距離 16・8km
 歩行時間 7時間30分

北穂高岳の北東、横尾本谷左保源流の標高2470m付近に大小四つの池がある。池へのルートは、いずれも踏跡程度か、道などないといってもよい。ここでは湖沢を起点に、比較的よく歩かれている北穂東稜から北穂池に下り、帰路は大キレットから北穂經由で湖沢に下るコースを紹介する。

湖沢の手前だ。ここから一般道を離れて右手の北穂沢を横切り、東稜の最低コルへと崩れやすい岩礫のルンゼを登る。左寄りの安定したかすかな踏跡をたどり、上部は右側の沢を登って東稜の最低コルに出る。コルから東稜をわずかに登り、右手に広がる草付の斜面に出る。斜面の縁に立つと北穂池が俯瞰できる。右手の屏風寄りのハイマツと大岩の間から、ハイマツの尾根の左側の踏跡に入り、ガラガラ岩の岩くずの斜



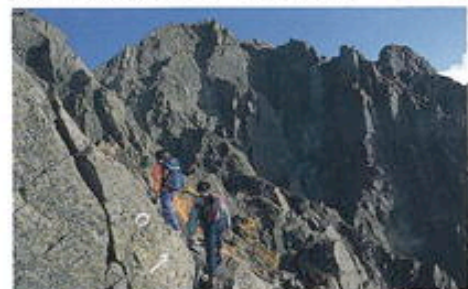
上：湖沢から北穂沢へ 下：東稜から北穂池への下り口



不安定な岩礫の中を北穂池へ



右：一番大きな一ノ池と南岳 上：三ノ池と常念岳 下：グズグズモレーンを大キレットへ



飛騨越えから望む浅谷。一番高いピークが北穂北峰山頂

面を、池を目標にまっすぐ下る。ハイマツのもっこりした小ピークの手前で左に折れ、灌木帯から小さな草付に出て、大きなルンゼに下る。60mほどでルンゼを離れて左手の沢に下り、向かいの尾根を乗り越えて広いモレーンへ。正面の小山の左手を目標し、大岩の累々とする斜面を下る。北穂池は全部で四つ。つまり、小山を過ぎて右手に下るといちばん大きな一ノ池、そのまま進むと二ノ池から最も小さな四ノ池、その右手に三ノ池がある。常念岳や南岳獅子鼻を正面に、みごとに紅葉を映し出す。秘境の秋を独り占めしたら、帰途につく。

往路を戻るのが確実だが、ここでは北穂北壁下部のモレーンを登るルートで紹介しよう。上部はアリ地獄のようにグズグズと崩れるので注意。右手に回り込み、白い角柱を目印にハイマツ帯を乗り越し、A沢のコルから一般ルートを北穂へと登る。



A沢のコルへ出る手前のハイマツ帯を乗り越す時、目印の支柱



昇己のテクニカルアドバイス

三つの池をめぐるルートは、湖沢を起点に中島新道を登る奥又白池を除いては、はつきりした道はなく、地図を頼りに道を探し、かすかな踏跡をたどるもの。道のない尾根や谷を歩くのは、よほど山を歩く技術に卓越した人でないかぎり、道を失いやすく危険だ。初心者の場合は、必ず経験者と同行すること。地図を読む技術のほか、むだな装備は持たず迅速かつ早発早着で時間的余裕を持って行動する。地図とコンパスは必携。また昼食のほか？食程度の予備食も携行しよう。

★山小屋主人のコース・メモ



北穂高岳 北穂高岳 北穂高岳

魅力に磨きがかかります。

湖沼の多い穂高連峰のなかで、山上のオアシスといわれる秘境に三つの池があります。北穂池、奥又白池、ひょうたん池で、いずれも一般ルートから外れ、標高2400m前後後に位置、それぞれに神秘的なたたずまいを見せています。これらは穂高の手鏡と称され、男性的な穂高の峰々にあつて安らぎを与えてくれます。